

今月はアジアマンスです。図書館でもアジアについての展示を行ったり、おはなし会でアジアのおはなしや絵本を読んだりしています。今回は図書館で配布している「アジアの絵本に出会う！」というリストのなかからイチオシの1冊をご紹介します！また図書館では今月、アジアの言葉が載ったしおりを3枚集めると素敵なカードケースがもらえる！というイベントも行っています。ぜひ参加してみてください。しおりは各図書館で配布しています。

『スマントリとスコソロノ : 山からきたふたご』

乾 千恵 再話 早川 順子 絵 松本 亮 監修 福音館書店 2009年 1785円  
絵本

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

インドネシアにワヤンという影絵芝居があります。これはそのワヤンで演じられるおはなしをもとにした絵本です。

インドネシア、ジャワ島に伝わるむかしの物語。

ジャティサロノの山奥でスマントリとスコソロノという兄弟が生まれました。かつては有名な武将だった父親は、上の息子スマントリは大切に育てますが、みにくく生まれた弟のスコソロノは森にすててしまいます。けれども、ふしぎな力を生まれながらに持っていたスコソロノは、森の中で生きのびて、兄さんのスマントリが立派な若者になって、マエスパティ国の王、ハルジュノソソロ王に仕えるため都に旅立つと、兄さんを助けるために、黒雲に姿を変えてスマントリについて行きます。兄弟はとても仲がよかったのです。

都についたスマントリは家来になりたいとハルジュノソソロ王に申し出ますが、王はある難題をスマントリに出し、それを解決できないと家来にできないといいます。実はハルジュノソソロ王は天界の神が魔王を倒すために地上に使わした神の化身だったのです。それとは知らずに王の命令を守り冒険に挑もうとするスマントリとそれを助けるスコソロノ。物語は王の天界での妻ウィドワティや魔王ラウォノなどの登場により、二人の兄弟にとって悲しい結末へと進んでいきます。

<子どもに手渡すときのポイント>

インドネシアの伝統芸能であるワヤンは、結婚式や誕生日などに「魔除け」として一晩かけて上演されるそうです。そのワヤンの魅力にとりつかれた乾千恵さんが、この絵本を再話しています。乾さんのワヤンへの愛情が伝わってくる、ワヤンの魅力が十分に伝わる絵本です。この絵本を見て、私もぜひ一度この影絵芝居をみたいものだ

思いました。

おはなしは、神々の登場など少し入り組んでいるのであまり小さい子には理解するのが難しいかもしれません。また、いくつかのエピソードがつながって長い物語となっているので通常のよみきかせには難しいかと思います。個人的には高学年のクラスで試してみたい気もしますが(^\_^;)棚に並べているだけではなかなか魅力が伝わりにくい本ですが、ぜひ一度読んでほしい1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか